

二〇一四年 六月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

わが心にまかせずしてこころをせめよ。

れんによしようにんごいちだいききまがき
『蓮如上人御一代記聞書』

この言葉の現代語の意味は、「わが心にまかせて気ままに過ごすようなことをせずに、わが心をよく見つめて引き締めるようにしなければならない」ということです。

私たちの日常を振り返ってみると、つい気ままに過ごしてしまい、すべき事があるのに、それを忘れていることがあるのではないだろうか。ふとした時、自分自身の気持ちを引き締め直すことが必要だと蓮如上人は述べられます。うっかりしていたら時間はあっという間に過ぎてしまいます。早いもので、今月で二〇一四年の前半が終わり、来月からは二〇一四年の後半に入りますね。

今、自分は何をすべきなのか、時々自分の心をチェックしながら日々の学校生活を送ってほしいと思います。

今月の聖語

自己こそ自分の主である。他人がどうして（自分の）主であろうか。

『ダンマパダ』

私たちの毎日は、家族や友達をはじめ多くの人と関わり合いながら成り立っています。そこでは、周囲の人からの励ましやアドバイスなど様々なやり取りがあり、人から影響を受けたり、また人に影響を与えているように思います。

釈尊は、自己の主は自分であることを述べます。他者が自分の主ではありません。にもかかわらず、日常生活を振り返ったとき、ついつい周りの目を気にしたり、人の意見に流されてしまうことがあると思います。人が良いということは果たして自分にとって良いことでしょうか。当然、他者からのアドバイスは参考にすべきだと思いますが、大切なことは、自分自身が自己の主として納得する考えを持つことだとこの言葉から教えられます。あなたの主はあなた自身でしょうか。